

平成21年度採択評価結果(平成21年9月)

[研究開発課題課題名] PaaS-CAE基盤技術に関する研究開発

[委託研究機関名] (株)キャトルアイ・サイエンス

点数	合計 点数	所見
技術評価	34	<p>(技術)</p> <p>提案内容には十分な基盤技術性があると認められる。また、既存製品ソフトウェアの拡張(PaaS化)が目標であり、技術的実績にも問題はない。</p> <p>サブテーマは細分化され、それぞれ数値目標などが具体的に示されており、妥当な計画であると判断できる。ただし、研究分担者に多数のアルバイト研究補助者と新規採用研究員が含まれており、十分な能力を有する人材確保が重要であると思われる。</p> <p>本提案で開発されるシステムと、提案組織の既存製品であるRCMシステムソフトウェアの統合化により、従来困難であった変化の激しいR&D業務の完全なシステム化(プロセスおよびデータのDB化、自動処理化)が可能になり、近年のR&D業務で困難になってきている大量ファイルからの必要情報の探査やトレーサビリティの確保やノウハウの継承が可能になり、R&D業務に関して大幅な効率化と質の向上、継承性が獲得されると提案されている。</p> <p>ただし、このような実現性が、実際の、特に、我が国における研究開発(R&D)業務に関して実現可能であるかに関しては、否定的な意見も多い。特に、欧米諸国と比べて、各R&Dプロジェクトごとに最適化された独自システムの構築を行うことが一般的な我が国におけるPaaS有効性は、実フィールドにおける有効性が検証されなければならないだろう。技術の革新性、新規性に関しては、近年、欧米の企業を中心に研究開発とシステムの市場投入が行われてきた分野であり、特に、R&D活動に関する SaaS環境、PaaS環境、IaaS環境の提供は、IBM社をはじめとして、数多くの大企業がビジネス展開をすでに推進している分野である。</p>
事業化評価	34	<p>(事業化)</p> <p>会計・事務処理等におけるSaaSの普及の結果、R&Dシステム等においても極力自社に機器を所有しないようにする企業が増える可能性は多分にある。そうした傾向を通じてこれまでの顧客の喪失を招かないためにも、本提案の製品を開発する必要性はあると言える。提案されている製品は現時点において、競合製品が世界的にも存在しない点なども評価できる。ただし、現行の顧客層を対象に営業展開を行っても、既存製品からの顧客の移動が生じるだけに終わる可能性が高いことから、提案者における全体的な収益を高めるには、いかに新規顧客へのアピールを行うかがポイントになる。そのためには、これまで連携の実績のある企業等以外の販売代理店等の開拓なども必要になる。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。